

## 安倍政権下の憲法と教科書問題

——その改憲意図と論理を主権在民の立場から斬る——

2013・5・3

高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）

### 1 改憲の本心を見せた安倍政権

- 1) 改定教育基本法を歪曲した答弁を繰り返す安倍首相 (p-1)
- 2) 恣意的用語「自虐史観」を選挙公約に掲載して恥じない自民党 (p-2・3)
- 3) 「いじめ対策」にかこつけて強行される「教育勅語体制」の復活  
——めざすは男女平等（憲法24条）から家父長制の復活 (p-4・5)

### 2 高まる国内外からの批判

- 1) 靖国参拝で顕在化した議員の保守化への警戒心と A 級戦犯問題 (p-6・9)
- 2) 「4・28 主権回復記念式典」で呼び覚まされた沖縄の怒りと誇り (p-7・8)  
——「天皇メッセージ」及び講和条約第3条の理不尽さと5・15「復帰の日」の意味
- 3) 「押し付け憲法」論の破綻を証明している「つくる会」系の教科書 (p-9)

### 3 我々主権者は安倍政権に事実で迫る

- 1) 安倍首相の軽薄言動が掘り起こした昭和天皇の違憲・違法行為の記憶 (p-6～9)
- 2) 歴史的事実（ハアクト）としての1941年12月8日の「日タイ戦争」 (p-9)  
——隠されている開戦時の昭和天皇による中立条約違反の戦犯問題
- 3) 改定学校教育法が学校教育の目標に定めている思考力の育成 (p-10)  
——小・中は「公正な判断力」、高校は「健全な批判力」  
——カリキュラム（教育課程）編成権は個々の学校に、成績評価権は個々の教師にある！